

巻 頭 言

当財団で石沢進氏に植物標本の分類作業と新津地域における植物分布の調査・研究をお願いして4年。その結果は、森林、野鳥、昆虫などの調査と合わせて毎年開催される里山調査報告会や新津市民大学での講座「郷土の植物」などを通じて市民に還元され、里山保全の意識啓発に貢献している。

また、皆様方のご協力をいただきながら調査・研究を進め、この年報発刊によって多くの研究者・研究機関との交流も進んできている。

新津市は平成17年3月21日に新潟市と合併する。人口は約80万人となるが、豊かな自然環境に囲まれ都市、水と緑の環境を大切にしたい資源循環型社会の実現に向けた「大地と共に育つ田園型政令市」を目指している。

わが「にいつ丘陵」も新・新潟市の貴重な財産として、より多くの市民から親しまれるものとなる。ますます価値が高まる里山の保全事業に力を入れることにしているが、当財団のこれまでの調査研究の成果がフルに活用されることになる。

合併後も植物分布調査は石沢氏に引き続きお願いしていくが、こうした調査では行政区域の境界はあまり意味を持つものではなく、今回の報告では既に新・新潟市域の調査報告も盛り込まれている。今後も、より大きな視野の中で地域の特徴を浮かび上がらせることが必要であり、あらためて大勢の皆様のご協力をお願いする次第である。

2005年3月

(財) 新津市文化振興財団

理事長 湯 田 幸 永